

小暮地区遺跡群

上百駄山遺跡Ⅱ

平成7年度県営ほ場整備事業嶺地区

に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1996

群馬県勢多郡富士見村教育委員会

序 文

前橋市嶺町を中心に、富士見村の一部を含んで行われた県営は場整備事業嶺地区の富士見村分の面工事は、平成5年度に一旦は終了しました。しかし、地元民の強い要望によって新たに事業区域が追加され、その事業区域内に、平成5年度に調査を行った上百駄山遺跡の一部が含まれていたために、工事に先だって発掘調査を行うことになりました。

調査は遺跡の北東部にあたるわずかな区域を行っただけですが、平安時代の住居跡や時期不明の道路跡を検出し、事前に行った試掘調査の結果とも合わせ、上百駄山遺跡の平安時代集落の北東限を確定することができました。

本書が先年度に刊行された『上百駄山・寺間・孫田遺跡』発掘調査報告書とともに、多くの方々に活用されれば幸いに存じます。

最後に、発掘調査にご協力、ご指導をいただきました関係諸機関、地権者の皆様、調査に携わった方々に心より感謝申し上げ序といたします。

平成8年3月

富士見村教育委員会

教育長 鈴木清茂

例　　言

1. 本書は県営は場整備事業嶺地区に伴い事前調査を行った上百駄山遺跡の発掘調査報告書である。

2. 遺跡の所在地は以下のとおりである。

上百駄山遺跡　群馬県勢多郡富士見村大字時沢字上百駄山1437番地1他

3. 調査期間　試掘調査　平成7年11月6日～平成7年11月8日

　　本調査　平成8年1月5日～平成8年1月31日

　　整理作業　平成8年2月1日～平成8年3月31日

4. 調査は前橋土地改良事務所の委託を受け、富士見村教育委員会が主体となって行った。

　　調査に要した費用は国庫補助金、県費補助金、農政委託金、村費をあてた。

5. 調査組織は次のとおりである。

富士見村教育委員会	教育長　鈴木　清茂	社会教育課長　品川　良治
	課長補佐　樺沢　幹男	文化財係　羽鳥　政彦（調査担当）

6. 本書の作成は編集、執筆、遺構写真、遺物写真の撮影を羽鳥が行った。

7. 発掘調査に際しては以下の方々からご協力を賜った。記して心より感謝の意を表したい。

　　群馬県教育委員会文化財保護課　前橋土地改良事務所　富士見村土地改良課　嶺土地改良区
　　勢多郡事務研究会社会教育部会文化財分会の諸氏

凡　　例

1. 本書の挿図の方位は座標北を表す。

2. 挿図の縮尺は以下のとおりである。

遺構図　堅穴住居跡	1／60	遺物図	1／3
道路跡断面	1／40		
全体図	1／200		

3. 住居跡の番号は前回調査からの継続番号を付している。

4. 遺構図のうち、出土遺物及び出土位置ドットに付けられた番号は、遺物実測図の番号と一致する。

5. 第2図は建設省国土地理院発行の2.5万分の1地形図「渋川」を一部加筆して使用した。

目 次

序文

例言・凡例

目次・図版目次

I	発掘調査に至る経緯及び調査の経過	1
II	遺跡の位置と周辺の遺跡	2
III	遺跡の立地	2
IV	平成5年度調査の概要	3
V	検出された遺構と遺物	4
報告書抄録		

図 版 目 次

第1図	遺跡の位置及び周辺の遺跡	1
第2図	調査区の位置及び遺跡周辺の地形	3
第3図	全体図	5
第4図	14号住居跡	5
第5図	14号住居跡出土遺物	5
第6図	道路跡セクション	5
第7図	遺構外出土遺物	5

写 真 図 版

P L 1 1. 榛名山を背景に上百駄山遺跡を望む（東から） 2. 14号住居跡全景（西から）

P L 2 1. 14号住居跡全景（北から） 2. 同左セクション（南から） 3. 同上遺物出土状態
4. 道路跡セクション（南から） 5. 14号住居跡出土遺物 6. 遺構外出土遺物
7. 赤城山を背景に試掘トレンチを望む（南から） 8. 試掘トレンチ（北から）

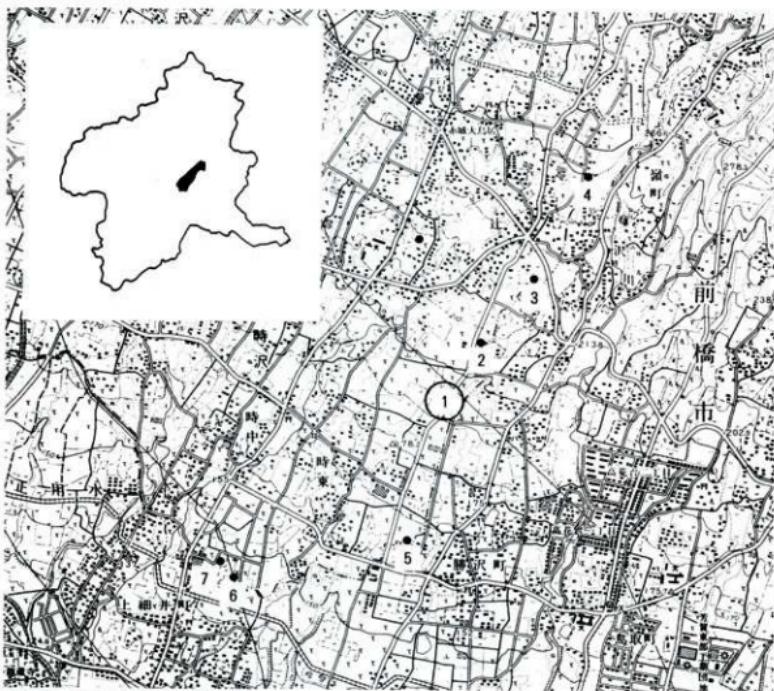
I 発掘調査に至る経緯及び調査の経過

前橋市と富士見村にまたがって施工された県営ほ場整備事業巣地区の富士見村分の面工事は平成5年度に一旦は終了したが、平成7年10月に至り、富士見村域において面工事の追加が採択されたため、工事予定地区内における埋蔵文化財の有無について前橋土地改良事務所より問い合わせがあった。これに対し村教育委員会では工事予定地は平成5年度に発掘調査を行った上白駄山遺跡の近接地であり、同一台地上に位置することから、とりあえず現地確認調査が必要である旨回答した。

現地調査の結果、少量ながら縄文時代の遺物が散布していることが確認された。現地調査の結果をもって前橋土地改良事務所と協議を行い、できるだけ早い時期に試掘調査を行うことになった。

11月初旬に試掘調査を行った結果、平安時代と推定される住居跡及び縄文時代の遺物若干が検出されたため、遺跡の保存について村教育委員会と前橋土地改良事務所との間で協議を行ったが、工事実施の意志が固く、工事実施前に発掘調査を行い記録保存の措置を講ずることで合意した。

11月下旬から12月にかけて委託契約、発掘諸手続等を行い、年明けを待って発掘調査に着手した。



第1図 遺跡の位置及び周辺の道路

教育委員会では別件の発掘調査を行っており、並行して調査を行わざるを得なかつたため、また、厳冬期であり、土壤凍結等の悪条件も重なつて調査の進捗ははかばかしくなかつたが、調査規模が小さかつたことに助けられて1月中には調査を終了することができた。

II 調査地の位置と周辺の遺跡

上百駄山遺跡（第1図1）は富士見村の南東端部に位置する。赤城大鳥居の南方約1.3kmの地点であり、主要地方道渋川・大胡線と県道四ツ塚・原之郷・前橋線とのほぼ中間に位置している。谷地を挟んで東側はすぐ前橋市である。

上百駄山遺跡周辺の既調査遺跡で平安時代の遺構・遺物が検出された遺跡を見ると、富士見村内では北東約0.3kmに平成5年度に調査を行った孫田遺跡がある（同図2）。検出された遺構・遺物の主体は縄文時代前期後半のものであるが、平安時代の道路跡を調査している。やはり平成5年度に調査を行った北東約0.7kmに位置する寺間遺跡（同図3）では竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡を調査している。北東方1.2kmには平成2年度に調査を行った広面遺跡（同図4）がある。この遺跡も主体は縄文時代前期後半であるが、奈良～平安時代期の住居跡と溝跡を調査している。南方に目を転ずると、約0.7kmの距離に本年度民間開発に伴い調査が行われた組之木原遺跡（同図5）があり、古墳時代～平安時代の集落を検出している。南西約1.4kmの東緑屋谷戸遺跡（同図6）・西緑屋谷戸遺跡（同図7）も該期の住居跡・掘立柱建物跡を検出している。東～南方の前橋市勝沢町周辺では芳賀北部団地遺跡等で大規模な集落跡等が調査されており、いわゆる「時沢郷」の推定地の一つにあげられている。

III 遺跡の立地

上百駄山遺跡は2本の小河川に挟まれた台地上に位置する。東側の河川は漸移的に落ち込み深い谷地状を呈している。西側の河川は急崖であるがごく浅く、比較的新しく開削されたものと思われる。遺跡周辺の地形は旧河川と台地が入り組み複雑な様相を呈しているが、2本の河川の間で最も台地の幅が狭まつた地点の南側に遺跡は展開している。本遺跡地では既に軽微な土地改良事業が実施されており、本遺跡地の北側は水田となっているが、以前は池であったということである。

本跡概要部は以前実施された群馬用水工事に伴う土地改良事業により多少の変更を受けているものの、平成5年度の試掘調査、本調査の結果からみると、台地の西側は比較的平坦（西～南側にわずか傾斜する）であり、東側は河川に向かって全体的に緩斜面となっている。また、北端部は小丘状の地形を残す部分があり、古墳があったという話も聞いたが、確認することはできなかった。

平成5年度の調査は北寄りの西側約半分を行っている。本年度調査区が遺跡の北東端部を規定すると推定され、各年度の試掘調査の結果も加味すると、南側を除く遺跡の範囲がおおよそ把握できたことになる。



第2図 調査区の位置及び遺跡周辺の地形（平成5年度調査区域の遺構は平安時代に限定）

IV 平成5年度調査の概要

平成5年度に行った本遺跡の調査では縄文時代、平安時代、中近世の遺構・遺物が検出されている。

縄文時代の遺構は前期後半（諸磯b～c式期）の住居跡6軒を調査した。遺物は前期後半が主であるが、草創期、中期、後期の土器も少量出土している。

中近世の遺構は掘立柱建物跡10棟以上、土坑約50基の他、溝、井戸等である。遺物がほとんど出土していないため明確な時期は不明であるが、戦国時代の城館跡と思われ、地元に残る「百駄城（ヒャクダジョウ）」の言い伝えが図らずも証明されることとなった。

本年度調査地で検出された住居跡の帰属する平安時代の遺構は竪穴住居跡13軒、掘立柱建物跡5棟、溝、土坑等である。調査区域内での遺構の大半は南半部に検出されており、北半部には竪穴住居跡が3軒検出されただけであるが（このうち1軒は小鍛冶遺構）、本報告の住居跡と同様にこの3軒とも覆土上層に浅間山B軽石が堆積していた。

V 検出された遺構と遺物

14号住居跡

平成5年度の調査で検出された1・2・10号住居跡と同様に覆土上層に浅間山を給源とするB軽石が堆積している。住居跡は現代の耕作溝に激しく擾乱されている。

住居跡の規模は、東西約4.0m、南北は南壁が完全に削平されているため不明確ではあるが、耕作溝内に収まると推定されるため、3.6m前後を測り、東壁の若干長い隅丸方形状を呈すると思われる。検出面からの深さは30cm前後を測る。

床面はカマド前面を含めあまり踏み固められておらず軟弱である。東壁～北壁に壁周溝が巡るが、西壁際は明瞭には検出されなかった。カマドは東壁の中央より若干南に寄った位置に検出されている。耕作によって大半が削平されており、構造等不明確であるが、右側の粘土袖が残存している。現状では煙道がわずかに壁外に伸び、燃焼部の大半は壁内に位置するようである。

遺物はカマド燃焼部と南壁際東半部から土師器の壺の破片が少量出土しただけである。カマド前面や南東隅等の床面に密着して礫片が出土しているが、これらはカマドの補強材だった可能性もある。

本跡は出土遺物や覆土の状況から平安時代に属すると思われる。

14号住居跡出土遺物

1は土師器の壺で、カマド燃焼部と南壁際の破片が接合した。口径約22cmを測り、約1/4が残存する。

2も土師器の壺であるが、小破片であり法量等不明である。これ以外には若干の土師器壺の胴部破片が出土しているだけである。

道路跡

調査区の東端部に沿って検出された。試掘調査時点では筆境として凹んでいたため、トレンチを並行にいれており認識できなかつたが、調査区の拡幅により検出された。

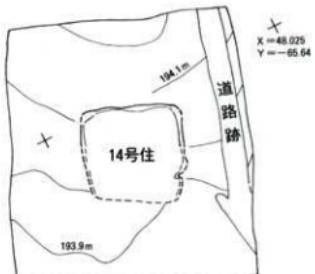
調査区内での道路跡の走行は、南端部にはば南北方向の走行を示す部分が認められ、ここから分枝するよう北東方向に偏した走行部分が残存し、調査できたものと思われる。

検出面での上幅約80cmを測り、南北方向の調査区域外に伸びている。調査区北端の断面部分で観察すると上幅約1.4mを測り、周辺より20cm程度低い位置が路面となっていたようである。路面は非常に堅く踏み固められており、中央部がわずかに凹んでいる。北端部分の断面では若干東へ路面が移った状況が観察できるため、具体的な使用時期や、使用期間は不明なもの、少なくとも2時期にわたって使用されたことが伺われる。ただし、東側の道路跡上には比較的綺麗はあるものの耕作土に類似する土壤が堆積しているため、比較的現在から近い時期に使用されていたと推定される。

遺構外出土遺物

試掘調査の際に3点の縄文土器がトレンチ内から出土している。

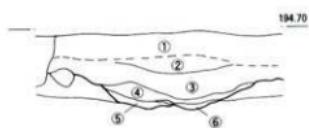
1は深鉢の胴部～口縁部破片で、爪形文が施文される。諸磯b式土器である。2は無文である。



第3図 全体図

住居跡土層注記

- ① 暗褐色土。B軽石を多量に含む。
- ② B軽石純層。
- ③ 黒色土。C P、F Pを含む。
- ④ 暗褐色土に黑色土。C P、F Pを多量に含む。
- ⑤ 暗褐色土。褐色土ブロック、C P、F Pを含む。
- ⑥ 褐色土にふい黄褐色土。軽石ごく少量。
- ⑦ 黄褐色土に褐色土ブロック。



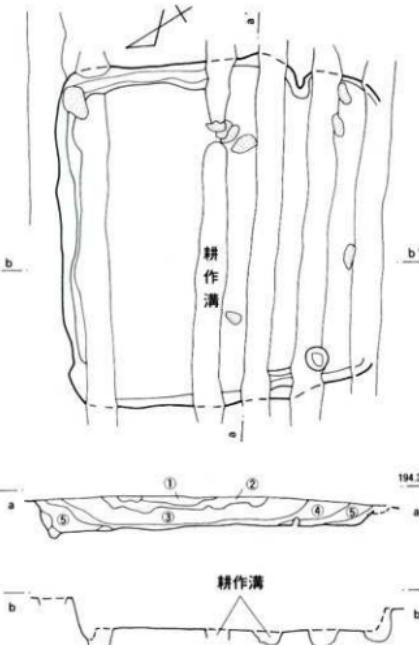
道路跡土層注記

- ① 純作土。砂質暗褐色土。
- ② 暗褐色土。下面にC Pを多く含む粗砂層。
- ③ 暗褐色土。C P、F P少量化。
- ④ 褐色土にふい黄褐色土。軽石少量。締まりある。
- ⑤ 暗褐色土と褐灰色砂状土。全体的に硬化している。
- ⑥ ⑤~③若干褐色味が強い。⑤→⑥

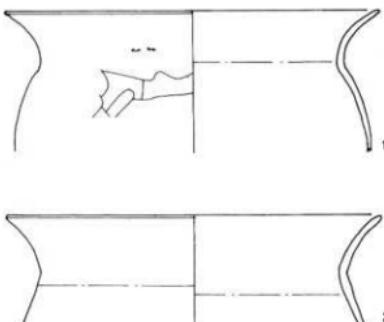
第6図 道路跡セクション



第7図 造構外出土遺物



第4図 14号住居跡



第5図 14号住居跡出土遺物

発掘調査報告書抄録

フリガナ	コグレ チ イセキダン カミヒヤクダセマイセキ ニ
書名	小暮地区遺跡群 上百駄山跡遺跡Ⅱ
副書名	県営圃場整備事業嶺地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	羽鳥 政彦
編集機関	群馬県勢多郡富士見村教育委員会
編集機関所在地	〒371-01 群馬県勢多郡富士見村大字田島866-1 ☎ 0272-88-6111
発行年月日	西暦1996年3月25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 °'\"/>	東経 °'\"/>	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
カミヒヤクダセキ 上百駄山遺跡	セタグンフジミムラ 勢多郡富士見村大字時沢字上百駄山	10303		36°25'51"	139°6'4"	1996.01.05 ～ 1996.01.31	100m ²	県営圃場 整備事業

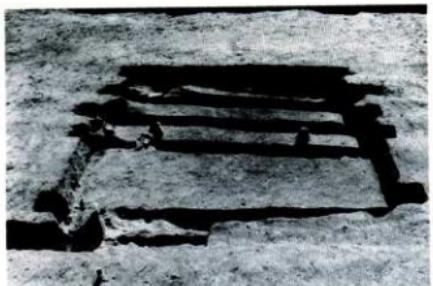
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上百駄山遺跡	集落	平安 時期不明	住居跡 道路跡	1軒 1条	土師器 浅間B軽石が堆積



1. 楼名山を背景に上百駄山遺跡を望む（東から）



2. 14号住居跡全景（西から）



1. 14号住居跡全景（北から）



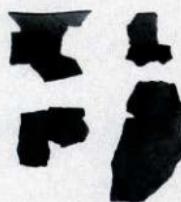
2. 同左セクション（南から）



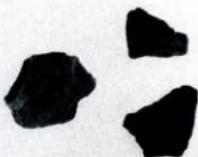
3. 同上遺物出土状態



4. 道路跡セクション（南から）



5. 14号住居跡出土遺物



6. 遺構外出土遺物



7. 赤城山を背景に試掘トレンチを望む（南から）



8. 試掘トレンチ（北から）

小暮地区遺跡群
上百駄山遺跡Ⅱ

平成7年度県営公園整備事業嶺地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成8年3月18日印刷

平成8年3月25日発行

編集・発行／群馬県勢多郡富士見村教育委員会

群馬県勢多郡富士見村大字田烏866-1

電話（0272）88-6111

印刷／松本印刷工業株式会社
